

# 泌尿器科

## ● スタッフ（2021年10月1日現在）

診療科長 大野 芳正  
 医局長 佐竹 直哉  
 病棟医長 石田 卓也  
 外来医長 橋本 剛

医師数 常勤 16名  
 非常勤 7名

## ● 診療科の特徴

### 1. 特色

外来は午前中3診察室にて診察を行っており、午後は初診患者の診察を行っている。一日の来院患者は約120人となっている。病棟規定数は45床で稼働しており、診療はスタッフとチーフレジデントを中心としたチームによって行っている。1週間に15-20件の手術が組み立てられており、泌尿器科小手術から前立腺癌、腎臓癌、膀胱癌に対するロボット支援手術や腹腔鏡手術、開腹手術などの手術をバランスよく行っている。

### 2. 主な診療対象疾患

#### 1) 悪性疾患

腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌、精巣腫瘍、陰茎癌、後腹膜腫瘍など

#### 2) 良性疾患

前立腺肥大症、尿路感染症、尿路結石症、副腎腫瘍、水腎症、尿管狭窄、急性陰嚢症、尿失禁、精索静脈瘤など

## ● 診療体制と実績

泌尿器科で2021年に行われた手術について（図1）にまとめた。特に当科では2006年に国内で初めて前立腺癌に対するロボット支援下前立腺摘除術を導入し、国内トップレベルの手術実績を収めている。その他のロボット支援下手術も積極的に行っており、小径の腎癌に対してロボット支援下腎部分切除術（2021年度：32例）、浸潤性膀胱癌に対する膀胱全摘に関しても、ロボット支援下膀胱全摘除術（2021年度：20例）を行っている。当科で行っているロボット支援下手術の変遷を（図2）に示す。さらに腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援下腎盂形成術も2020年4月に保険収載となり、当科でも取り入れて行っている。

また、前立腺癌の治療では、ロボット手術だけでなく、小線源治療、強度変調放射線治療（IMRT）、薬物療法、ラジウムによる骨転移治療など、種々の治療が可能である。また腹腔鏡下手術も行っており、腎臓癌、腎盂尿管癌に対しては腹腔鏡下腎（尿管）摘除術を行っている。また尿路変更術においては、機能温存を目指した自然排尿型代用膀胱造設術を積極的に行っている。患者の希望やQOLを考慮し、様々な治療が行えるよう体制を整えている。またPSA高値を認め、MRI画像検査にて前立腺癌が疑われる場合には、当施設ではより正確な診断が可能であるMRI撮影および超音波検査融合画像に基づく前立腺生検法を行っている。

図1 2021年の手術実績

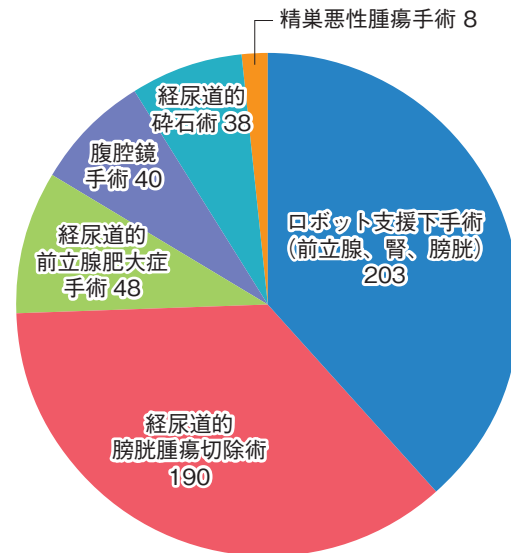


図2 ロボット支援下手術

